

## 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

# 京都建築事務所

〒 604-8083  
京都市中京区三条柳馬場東入中之町10  
代表取締役社長 川下 晃正  
TEL (075) 211-7277  
FAX (075) 211-7270  
<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

無料

## 総合社会福祉研究所・福祉のひろば ～ オンライン連続講座 ～

第  
四  
回

2021年10月9日(土) 16時～18時

### テーマ：ひきこもり・生活困窮者を生み 出すいまの日本社会のしくみ(仮)

山本 耕平さん  
(佛敎大学教授)

※下記のメールアドレスに、お名前、所属、電話番号をお知らせください。当日視聴ではなく後日配信をご希望の方は、その旨をメールにご記載ください。  
開催1週間前までにはメールにてZOOMのURLをお送りします。

【申込み・お問い合わせ】

総合社会福祉研究所／月刊誌『福祉のひろば』  
TEL : 06-6779-4894 FAX : 06-6779-4895

E-mail : [mail@sosyaken.jp](mailto:mail@sosyaken.jp)



**車いすがまちに出られる社会をつくりたい**  
**——車いすスポーツを通して伝えたいこと**



日本車いすアメリカンフットボール協会代表の糸賀亨弥<sup>いとがきょうや</sup>さん。2007年秋、監督をしていた天理大学アメリカンフットボール部の試合中、それがデビュー戦だった一回生の学生が、試合中の事故で頸椎<sup>けいついそんしょう</sup>損傷。きのうまで走りまわっていた18歳の彼は、車いすで帰ってきた。

それでも「アメフトをつづけたい」と話す彼や、車いすの彼をあたりまえのように介助する仲間の姿を見て、一緒にスポーツをさせてあげたい、一緒にできるものがあるのではないかと、車いすスポーツに関心をもちはじめた。



初めて見た車いすバスケットに衝撃を受けた。いまでこそよく言われるようになったが、「これは『障害者スポーツ』ではなくて、車いすを使った『スポーツ』だ」と思ったし、車いすさえ使えばぼくたちもやってもいいんだ」と思ったと糸賀さん。

Wheelchair Football (車いすアメフト) の競技があったアメリカに見学に行くなどし、日本車いすアメリカンフットボール協会を立ち上げた。以来、車いすアメフトだけではなく、車いすスポーツをもっと身近に感じてほしい、車いすそのものを身近に感じてほしい、その先には、車いすがもっとふつうにまちなかに出られる環境をつくりたい、と全国の小中学校や大学、イベントに車いすをもって参加している。



障害があっても、病気で、寝たきりでも、スポーツをしたい人はたくさんいる。「『スポーツをする』のはただ走るだけではない。道具やルールを変えてできることもあるし、頭を使って作戦を考えたり、マネジメントすることもとても大切。ファンとしてチームを支えることもできる。どんなカタチであってもスポーツには参加できるし、奇しくもコロナ禍でオンラインがあたり前になったいま、その可能性は無限だと思う」と糸賀さん。

「自分自身、“福祉”という弱い人を守るというイメージがあったし、車いすも、“それは身体の不自由な人が乗るものだから気軽に触れてはいけない”というイメージがまだまだ強い。でも、車いすで自由に生きられるまちは、すべての人にとって生きやすいまちだと実感した。福祉こそが人の未来をつくるのだと思う」と話す。

(写真・日本車いすアメリカンフットボール協会、文・申佳弥)

## 【ひろばトーク】

アフターコロナにむけて、組合活動のすそ野を広げる 土田 昭一 6

## ●特集● ジェンダーから考える貧困と福祉

10年たっても抜け出せないDVの苦しみ	高橋 恵子	10
男性も当事者としてジェンダーフリーをめざすために	福岡 明恵	14
男も家事・育児・介護をするために	富田 秀信	18
親の介護で人生終わるのか？		
——母の機能回復を目の当たりにして——	小原 悟	22
圧倒的にケアワークの価値が低い日本	丸山 里美	25

## ●トピックス●

二進法で福祉は捉えられない！	藤永のぶよ・桑原一章	28
——デジタル庁創設が福祉にあたる影響を考える		
現場レポート・コロナ禍における食料支援	藤原 望	34
高齢者医療改革のどこが問題か？	長友 薫輝	38
<b>【PHOTO】ズームイン！</b>		
いずみ野福祉会デイセンターせんなん		42

## ●連載●

WORK WORK——わくワク——	きつつき共同作業所	46
「きょうされんふきん」を作りつづけて38年		
ミリタンが実現するフランスの福祉	安發 明子	48
子どもの貧困対策は「女性の経済的自立」を支えること		
かさねあい、はぐくみあう保育実践		
阿保らしさ～それぞれの色合いを重ねて～	副島 帆果	50
夕映えのとき～人生の終え方を支える実践～		
“少しの満足”を共有したい	枝松敦史・野代愛美	54
<b>JOB&amp;ACTION 全国福祉保育労働組合（7）</b>		
地域の福祉労働者とともに「社会的制度や基準の確立と改善」をめざす！		58
<b>私の履歴書 社会福祉経営全国会議（7）</b>		
男たちは、憲法と運動で保育者になった	藤井 修	60
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（27）	水野阿修羅	62
相談室の窓から 若者たちを傷つけるもの	青木 道忠	64
育つ風景 子どもの涙に教えられる	清水 玲子	66
ひととしてあたりまえに生きたい		
施設建設委員長長として（2）	清田 廣	68
映画案内 『赤ひげ』	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて	生田 武志	72
DaiGoのユーチューブでの生活保護、野宿者に対する差別発言		
似らすとれーしょん道場 金メダル兄弟じゃ！	ラッキー植松	74
ホームレスから日本をみれば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

## 福祉のひろば

2021年10月号

●表紙の絵●  
神門やす子



みんなのポスト 44 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81

●グラビア● 車いすがまちに出られる社会をつくりたい

# アフターコロナにむけて、 組合活動のすそ野を広げる

全国福祉保育労働組合中央執行委員長 土田 昭一

全国福祉保育労働組合は、フリーダイヤルとメールによる労働相談を実施しています。二〇一九年は約二五〇件の相談件数でしたが、昨年はコロナの影響で五〇〇件を超えました。昨春の全国一斉臨時休校や緊急事態宣言後の数か月は相談が集中し、一日中受話器を手に対応する日もありました。多くは保育士からの相談です。登園自粛による子どもの減少や休園により、自宅待機や勤務時間の削減が命じられ、有給休暇や欠勤扱いにされたことへの不満や疑問が中心でした。非正規雇用の場合は、生活困窮に直結する事案もありました。

昨年の相談内容でもっとも多かったのは、「労働時間、休憩・休暇」に関するもので三七%です。次いで「賃金・手当」と「職場環境」が二〇%。近年増加傾向にある「ハラスメント」は一七%です。「休憩・休暇」には、先に紹介した有給休暇の取得強要や昼休憩がとれない、「賃金・手当」には欠勤扱いや休業補償の不払いなどが含まれています。「職場環境」は多岐にわたりますが、不適切な労務管理や労働契約違反などです。相談対応では、相手のおかれている状況や思い、考えをしっかりと聞くことを心がけています。問題状況や解決の糸口を十分に理解していない相談者は多数います。問題の原因がどこにあり、解決のためにはなにが必要かを一緒に考え、整理します。問題解決を請け負うのではなく、相談者に主体的に動いてもらうよう働きかけます。同じ境遇にある人と力を合わせ、集団で行動することの大切さも伝えていきます。



## つちだ しょういち

1986年5月社会福祉法人京都府社会福祉協議会入職。2012年4月全国福祉保育労働組合京都地方本部の専従役員。2017年9月現職。本誌全国編集委員。

問題解決の道筋ややるべきことが一定整理できても、実際はなかなかうまくいきません。理不尽なことに憤り、なにが問題なのかも理解し、自分の主張の正しさに確信をもちながらも、行動を起こすことをためらう相談者が大半です。「行動を起こすことで目をつけられないか」「問題は解決できても、その後、働きにくくなるのでは」など、不安と葛藤を吐露とつされました。「労使対等の原則」はほど遠く、泣き寝入りされる相談者を前に、自らの力不足と労働組合の組織率の低さにくやしい思いをしました。

そのときに思い出したのが、八年前に放映されたドラマ「ダンダリン」の一場面です。主人公で労働基準監督官の段田凜は、こう語りかけました。「会社が嫌なら辞めればいいじゃないか」。よくかんとんにそういうことを言う人がいます。あるいは、我慢をするか会社を辞めるか、会社員にはその二通りの選択肢しかないとおっしゃる方もいます。でもそれは間違いです。本当は三つ目の選択肢があるんです！ それは、言うべきことは言い、自分たちの会社を自分たちの手でよりよいものに変えていくという選択肢です！」と。

アフターコロナに向けて、脆弱ぜいじやくな社会福祉制度の基盤強化と福祉労働者の労働環境の改善が社会的な課題になっています。職場での原則的なたたかいをとおして、制度・施策の不備や矛盾をあぶり出し、その改善を政府や行政に迫る運動が求められています。福祉労働者が躊躇ちゅうしよなく「三つめの選択肢」を選べるよう、組合活動のすそ野を広げます。

## ジェンダーから考える貧困と福祉

ジェンダーとは、生物学的な性別に対して、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。LGBTQ（レズビアン・女性同性愛者、ゲイ・男性同性愛者、バイセクシュアル・両性愛者、トランスジェンダー・性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人、クイア・性的少数者を表す総称のひとつ）という言葉や、女性が受けてきたセクハラや性的暴行を公表し、世の中を変えていこうとする「#Me Too」運動が世界的な広がりを見せるなかで、ジェンダーの問題は、あらゆる分野・場面で議論されるが増えています。

私自身、四歳と二歳の娘を育てるなかで、ジェンダーについて考えさせられることがたくさんあります。一歳ぐらいから、人形が大好きで「保育園の入り口までもつていく!」と譲らない娘や同じような女の子を見ながら、いつぼうで、保育園の帰りには、ちかくの踏切で男の子たちがひたすら電車を見つづける姿がありました。ほかにも一つひとつの仕草に女の子と男の子のちがいを感し、「女の子と男の子ってこんなにちがうんだ」とおどろくことがたくさんありました。

四歳くらいになったころから、しきりに「女やから」「男やから」と言うようになりました。「女やからピンクにする」「パパは男やから強いやろ」と、男であることを理由にする場面がとても増えました。つい先日は、バレエの真似をしながら「見て〜! 女らしい?!」と聞かれ、空手のような真似をしながら「見て〜! 男らしい?!」と聞かれました。

もちろん、私も夫も、「女の子だから」「女の子なのに」という声かけはしないように心がけてきました。ですが、娘を見るなかでジェンダーの問題に興味をもち、ふり返ってみると、明確に「女の子だから」と言っていないくても、あらゆる場面で娘にジェンダーバイアスをふんだんに含んだ声かけをしていることに気づかされました。娘に直接かけた言葉ではなくても、「女の子なのに元気だね」「やっぱり男の子って電車好きだね」などと、ジェンダー観が強調される会話を、子どもはこれまでに数え切れないくらい耳にしてきたのだらうと思います。

娘の言動の背景には、少なからず、「女の子はピンクが好きなものなんでしょ」「女の子はカワイイのが正解なんでしょ」という、無意識に社会や大人の期待を鏡のように反映している部分があるのではないかと感じます。娘はいまのところ、そうした社会が押し付ける期待と自分の好みに、あまり差を感じていないようですが、疑問を感じ、傷ついたり悩んだりする子もたくさんいると思います。

「男は泣くな」という言葉も、いまだにたくさん耳にします。「男は弱音を吐かず、強くあらねば」という無言の圧力は、とくに思春期の男の子の心を不安定にさせ、非行や暴力(性暴力ふくむ)、ひきこもり、うつの原因にもなっています。

性別ではなく、一人ひとりのありのままを受け止め、向き合い、尊重することがなにより大切です。同時に、私たち大人一人ひとりのなかに無意識に内面化されているジェンダー観に気づき、疑問をもったり、問いかけなおしてみることが、貧困の問題や、福祉労働への評価や、その先にあるだれもが自由に、公平に、しあわせに生きられる社会をめざすために、大切な一歩になるのではないのでしょうか。

(編集主任)